

平成23年度寒冷地果樹研究会 開催要領

寒冷地果樹に関する試験研究を推進する上で解決の急がれる問題について、専門分野(栽培、病害、虫害、土壌・肥料)別に課題を設定し、研究の現状と問題点等について検討し、寒冷地果樹研究の一層の推進に資する。また、果樹系統適応性検定試験成績検討会(寒冷地果樹)との合同で全体会議を設け、寒冷地果樹に係わる課題を討議する。

1. 開催日時 : 平成24年2月6日(月) 10時~17時
2月7日(火) 9時~12時

2. 会場 : サンセール盛岡
岩手県盛岡市志家町1-10(電話 019-651-3322)

3. 主催 : 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所

4. 検討事項

- 1) 全体会議「東日本大震災が及ぼした果樹園芸被害の現状とその回復への歩み」
平成24年2月6日(月) 10:00~12:30
- 2) 分科会
 - (1) 栽培分科会「リンゴ生産における省力・軽労化技術の課題と展望」
平成24年2月6日(月) 13:30~7日(火) 12:00
 - (2) 病害分科会「寒冷地果樹における病害防除の現状と今後の課題」
平成24年2月6日(月) 13:30~7日(火) 12:00
 - (3) 虫害分科会「農業に有用な生物の多様性を意識した害虫管理」
平成24年2月6日(月) 13:30~7日(火) 12:00
 - (4) 土壌・肥料分科会「リンゴ窒素施肥技術の確立に向けて」
平成24年2月7日(火) 10:00~12:00

※開催内容は、別添-Iを参照して下さい。

5. 参集範囲

農林水産省、独立行政法人試験研究機関、公設試験研究機関、大学等

【 問い合わせ先 】

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所リンゴ研究拠点
寒冷地果樹研究会係

〒020-0123 盛岡市下厨川字鍋屋敷 92-24

TEL 019(641)3164、 FAX 019(641)3819

E-mail : ringo-fruit@naro.affrc.go.jp

寒冷地果樹研究会全体会議、分科会一覧

〔1〕全体会議「東日本大震災が及ぼした果樹園芸被害の現状とその回復への歩み」

平成24年2月6日（月）10：00～12：30

1. 趣 旨

平成23年3月11日に発生した三陸沖を震源とする東北地方太平洋沖地震とそれに伴う高い津波は、東北地方の太平洋側3県に特に甚大な被害をもたらした。さらに東京電力福島第一原子力発電所の事故により放射性物質が広範囲に拡散し環境を汚染した。これら一連の東日本大震災が農業に与えた被害は計り知れず、果樹園芸に対する影響もきわめて大きい。震災発生から来月で早くも一年が経過するが、この間、各地で復旧・復興に向けた取組が懸命に進められてきた。

そこで、これまでに精査された果樹園芸被害の状況と回復・復興への歩みについて、それぞれ被害の様相が異なる岩手県、宮城県、福島県より報告していただくとともに、行政による支援対策等を紹介していただく。近年の自然災害は想定を超える場合が多く、柔軟で適時適切な対応がこれまで以上に求められるが、本会議がその参考となれば幸いである。

2. 話題提供者

1) 岩手県の被害状況とその後の経過

岩手県農業研究センター 主査専門研究員 及川 耳呂

2) 宮城県の地震・津波被害の現状と今後の対策

宮城県農業・園芸総合研究所 園芸栽培部長 菊地 秀喜

3) 果樹における放射線物質の影響と今後の課題

福島県農業総合センター果樹研究所 栽培科長 安部 充

4) 東日本大震災の果樹への影響と復興に向けた支援対策

農林水産省 生産局農産部園芸作物課長補佐 長谷川明宏

5) 総合討論

〔2〕栽培分科会「リンゴ生産における省力・軽労化技術の課題と展望」

平成24年2月6日（月）13：30～7日（火）12：00

1. 趣 旨

果樹栽培は高品質果実の安定生産を目標に発展してきたが、そのために必要となる生産者の手作業を主とする高い技術力は往々にして機械化が困難であり、未だに労働集約的な作業に大きく依存している。一方、近年では担い手の高齢化・女性化や後継者の減少が進行し、農業従事者の過重な労働負担や長時間労働を回避する省力・軽労化技術の開発が喫緊の課題となっている。加えて、今後予想される経営面積の拡大にも対応した省力技術の開発が求められている。とくに整枝・剪定・誘引などの「樹体管理」や授粉・摘果・着色管理・収穫などの「結実管理」は、防除・除草・施肥・基盤整備などの「園地管理」に比べて省力化や機械化が遅れており、早急な取組が必要である。

そこで、本会議ではリンゴ生産における省力・軽労化に関する技術的課題を整理するとともに、最新の研究事例をもとに今後の試験研究・技術開発の方向性を展望する。

2. 話題提供者

- 1) 果樹の省力・軽労化と樹体管理における課題と展望
(独) 農研機構果樹研究所 栽培・流通利用研究領域長 森永 邦久
- 2) リンゴにおける植物調節剤の研究・利用技術
千葉大学大学院 教授 近藤 悟
- 3) 果樹生産における省力・軽労化のための農業機械開発の現状と課題
(独) 農研機構生物系特定産業技術研究支援センター 主任研究員 太田 智彦
- 4) 総合討論

[3] 病害分科会「寒冷地果樹における病害防除の現状と今後の課題」

平成24年2月6日(月) 13:30～7日(火) 12:00

1. 趣 旨

寒冷地果樹に発生する病気の種類は多いが、発生生態解明や防除薬剤選抜等の研究の積み重ねにより、現在ではその多くは化学合成農薬による制御が可能となり、紋羽病等の難防除病害を除く主要病害については小康状態にあると言える。一方、新病害の発生、薬剤耐性菌問題、化学合成農薬投与量の削減やドリフト低減、温暖化問題など病害防除を取り巻く状況は厳しく、気象条件によっては突発的な被害を招く例もある。

そこで、寒冷地果樹病害防除の現状と問題点を整理し、今後の方向性を探る。

2. 話題提供者

- 1) 青森県におけるリンゴ輪紋病防除の現状と今後の課題
(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所 主任研究員 赤平 知也
- 2) 秋田県における最近のリンゴ病害発生状況と防除対策の現状および問題点
秋田県農林水産技術センター果樹試験場 主任研究員 佐藤 裕
- 3) リンゴとモモの共通防除体系について
福島県農業総合センター果樹研究所 副主任研究員 柳沼久美子
- 4) リンゴとセイヨウナシの共通防除体系について
山形県農業総合研究センター園芸試験場 専門研究員 後藤 新一
- 5) 青森県におけるオウトウ病害防除の現状と今後の課題
(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所 主任研究員 内藤 誠

[4] 虫害分科会「農業に有用な生物の多様性を意識した害虫管理」

平成24年2月6日(月) 13:30～7日(火) 12:00

1. 趣 旨

2010年第65回国連総会で、2011～2020年を国連生物多様性年とする「生物多様性条約」が採択され、国際社会が協力して生態系保全に取り組むことが決議された。我が国の農業分野においては、平成20年度から開始された農水委託プロ「農業に有用な生物多様性の指標及び評価手法の開発」および平成21年度から開始された実用技術開発事業「永年作物における農業に有用な生物の多様性を維持する栽培管理技術の開発」のプロジェクトで生物多様性に関する研究が様々な農作物を対象として全国で展開されている。寒冷地果樹に関しても、関係各県が本プロジェクトに参画し、多くの成果が得られている。

そこで、生物多様性維持と害虫管理技術について広く情報交換し、今後の展望および問題点を検討する。

2. 話題提供者

- 1) 青森県のりんご園における指標生物と環境保全効果の評価
(地独) 青森県産業技術センターりんご研究所 研究管理員 木村 佳子
- 2) リンゴ園における指標生物を利用した環境保全の取り組みの評価
秋田県農林水産技術センター果樹試験場 主任研究員 舟山 健
- 3) 中部地方りんご園における指標生物を利用した環境保全型防除体系の評価
長野県果樹試験場 研究員 金子 政夫
- 4) リンゴのハダニ類の土着天敵を温存する下草管理
(独) 農研機構果樹研究所 主任研究員 檜垣 守男
- 5) 寒冷地モモ園における指標生物と下草管理による土着天敵類の定着・温存技術開発
福島県農業総合センター果樹研究所 研究員 瀧田 克典
- 6) 総合討論

[5] 土壌・肥料分科会「リンゴ窒素施肥技術の確立に向けて」

平成24年2月7日(火) 10:00~12:00

1. 趣旨

リンゴの窒素施肥に関しては、これまで多くの試験成績があるにもかかわらず、明確な答えが得られていない。このため、各県の施肥基準にも大きな幅が見られるのが現状である。高品質果実の連年安定生産が求められる中で、近年の肥料価格の高止まり傾向に対応した適正施肥に対する要望が高まってきている。永年性である果樹では施肥試験等に長期間を要するため、リンゴの窒素施肥に関しても、限られた研究勢力を結集して課題解決を図る必要がある。

このため、本年度の土壌・肥料分科会では、リンゴの窒素施肥に関する課題について、今後の試験研究推進方向の統一化を図り、普遍的な技術開発のための議論を深化させる。

2. 話題提供者

- 1) リンゴ窒素施肥の見直しに向けて
(独) 農研機構果樹研究所 主任研究員 井上 博道
- 2) りんごにおける地力窒素発現量と施肥量の関係
秋田県農林水産技術センター果樹試験場 主任研究員 船山 瑞樹
- 3) 長野県におけるりんご無窒素栽培試験の中間報告
長野県果樹試験場 主任研究員 小松 正孝

3. 完了課題の検討(余剰時間がある場合)

[6] その他

寒冷地果樹研究会と並行して果樹系統適応性検定試験成績検討会(寒冷地果樹)も開催しますので、場所ごとに取りまとめをお願いします。